

### 3. 「金子みすずの詩」

これから三つの詩を紹介いたします。一つ目は「わたしと小鳥と鈴と」、二つ目は「こ  
だまでしょうか」、最後は「明るい方へ」という詩です。

「わたしと小鳥と鈴と」

わたしが両手をひろげても

お空はちつとも飛べないが、

飛べる小鳥はわたしのよう

地べたを速くは走れない。

わたしが体をゆすっても、

きれいな音はでないけど、

あの鳴る鈴はわたしのよう

たくさんの歌は知らないよ。

鈴と、小鳥と、それからわたし、

みんなちがって、みんないい。

「こだまでしょうか」

「遊ぼう」って言うと、「遊ぼう」って言う。

「馬鹿」って言うと、「馬鹿」って言う。

「もう遊ばない」って言うと、「遊ばない」って言う。

「ごめんね」って言う<sup>い</sup>と、「ごめんね」って言う<sup>い</sup>。

こだまでしょうか。

いいえ誰<sup>だれ</sup>でも。

「明<sup>あか</sup>るい方<sup>ほう</sup>へ」

明<sup>あか</sup>るい方<sup>ほう</sup>へ

明<sup>あか</sup>るい方<sup>ほう</sup>へ。

ひと<sup>は</sup>一つの葉<sup>は</sup>でも

ひ<sup>も</sup>陽<sup>ひ</sup>の洩<sup>も</sup>るところへ。

やぶ<sup>くさ</sup>藪<sup>くさ</sup>かげの草<sup>くさ</sup>は。

明<sup>あか</sup>るい方<sup>ほう</sup>へ

明<sup>あか</sup>るい方<sup>ほう</sup>へ。

はね<sup>こ</sup>翅<sup>こ</sup>は焦<sup>こ</sup>げよと

ひ<sup>ひ</sup>灯<sup>ひ</sup>のあるところへ。

よる<sup>むし</sup>と夜<sup>むし</sup>飛<sup>むし</sup>ぶ虫<sup>むし</sup>は。

明<sup>あか</sup>るい方<sup>ほう</sup>へ

明<sup>あか</sup>るい方<sup>ほう</sup>へ。

いちぶ<sup>ひろく</sup>一分<sup>ひろく</sup>もひろく

ひ さ  
日の射すところへ。

ま ち す こ  
都会に住む子らは。

これらは金子みすずという女性が作った詩です。金子みすずの詩は、小さいもの、  
弱いものに目を向けて、それらを大切に思う気持ちに満ち溢れています。彼女は1  
930年に、26歳という若さで亡くなりましたが、512もの詩を残しています。  
彼女の詩は、教科書やテレビCMにも使われ、現在でも多くの人に愛されています。